

第6学年 社会科学学習指導案

日 時 令和6年12月 日（ 曜日） 5校時（13：45～14：30）

学 年 第6学年（ 名）

授 業 場 第 学年 組 教室

指 導 者

1 単 元 近代国家を目ざして

2 単元の目標

○日本の国力が充実し国際的地位が向上したことについて理解するとともに、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。

○条約改正に向けた取り組みの特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。

○条約改正に向けた取り組みについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	<p>○世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べ、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などを理解している。</p> <p>○調べたことを年表などにまとめ、日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。</p>
思考・判断・表現	<p>○世の中の様子などに着目して、問いを見だし、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などについて考え、表現している。</p> <p>○条約改正と大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>○条約改正に向けた取り組みについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p>

4 単元について

(1) 子供の実態と培いたい資質・能力について

本学級の児童たちは、これまで社会科の授業でたくさんの判断型の授業を体験してきた。立場になりきって物事を判断する力は少しずつ身につけてきている。前単元「明治の新しい国づくり」では、幕府の役人として、黒船来航への対応を考える学習をした。その際、情報として当時の日本とアメリカの戦力差を伝えたりこれまでの単元の先人たちの行動を参考にするように伝えたりして、根拠をもって判断できるような場を設定した。ほとんどの児童が根拠をもって判断をしていたが、中には、自分の考えだけで判断している児童もいた。

本単元では、不平等条約を改正するために優先して取り組むことは何かを、政治や軍事力、産業など様々な視点から根拠づけて判断し、選択する。調べたり学習したりしたことを根拠として判断・選択できる力を養い、自分の考えに根拠をもって課題の解決に向けた話し合いができるようにしたい。

(2) 教材について

児童がこれまで学習してきた、明治の初めごろの日本は、外国の脅威に気づき、少しずつ近代化を進めていた。しかし、不平等条約の改正が認められないなど、日本の国際社会での地位は低い状況が続いていた。

本単元では、ノルマントン号の事件から、不平等条約を改正するべきであることに気づく。そして、不平等条約を改正するために優先して取り組むべきことは何かを考え、学習計画を立てる。その後、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、産業の発展、暮らしの変化について調べることを通して日本の国力が充実し国際社会での地位が向上したことを理解できるようにする。そして、調べたことを根拠として改めて学習問題に対する考えをまとめる。その際に、国力が充実し、国際社会での地位が向上していく中で変化する外国との関係にも目を向けながら、日本がどのように発展していったのかについて捉えることができるようにしたい。

(3) 子供の意識をつなげる単元構想について

①本時までの学習

前単元の学習では、日本がアメリカと不平等な条約を結んだことをきっかけとして、新しい明治政府が誕生したことを学習した。そして、明治政府が目ざした国づくりについて調べていく。その中で学習した富国強兵や文化などが、本時の判断場面における根拠として活用できるようにしたい。

前時の学習では、ノルマントン号事件の事例から、前単元での明治政府の国づくりでは、不平等条約改正の実現に至っていないことを知る。その上で、ノルマントン号船長の裁判の結果から不平等条約は改正するべきであるという考えにいきつく。そこから不平等条約の改正はどのようにして実現したのかという問いが芽生え、本時の学習につながる。

②本時以降の学習

本時の学習では、不平等条約の改正を実現するために優先して取り組みたいことに対して、根拠をもとに理由付けて、判断、選択する。児童は、明治政府の中心人物の立場になりきる。それでも、他人事として考えてしまうことが予想されるので、その都度、自分事として捉えられるような言葉かけをしていく。そして、明治政府の中心人物として、前単元に学んだことを根拠として、不平等条約を改正するために優先して取り組むべきことについて判断、選択させ

て、そして、政治の仕組みを整えることや軍事・産業・文化・科学の発展といった視点で整理することにより、明治政府がどのように不平等条約の改正に向けて取り組んでいったのか調べるための見通しをもつことができる。

次時以降の学習では、日本の政治や外国との関係、産業・科学の発展について調べていく。最終的に、もう一度優先すべき取り組みを判断・選択させるので、調べたことを根拠として活用し、調べたことをニュース原稿に表して発表するなど学習問題についての認識を深めていきたい。

5 指導計画（全10時間）

□…単元の学習問題、 □…本時のめあて、◆…主な評価

段階	活動と主な評価	子供の意識の流れ	指導・支援
問題をつかむ	①ノルマントン号事件について調べ、不平等条約の改正を願う人々の思いについて話し合い、学習問題をつくる。 ◆ノルマントン号事件の経緯などから、疑問をもち、不平等条約の改正を願う人々の思いに気づき、学習問題を立てようとしている。(思)	・海で溺れている人がいるな。 ・船長は軽い罰しか与えられなかったのはおかしいな。 ・不平等条約は改正しなければならない。	○ノルマントン号事件の風刺画を提示することにより、イギリス人と日本人は対等な関係になかったことに気づくことができるようにする。
不平等条約の改正は、どのようにして実現されたのだろう。			
予想を立てる	②学習問題について予想を出し合い、学習計画を立てる。(本時) ◆不平等条約の改正の実現のために優先して取り組むことは何かを考える中で、学習の見通しを立てる。(態)	・政治の仕組みを変えればいいんじゃないかな。 ・産業を発展させればいいと思う。 ・戦争に勝てる国にすればいい。	○「6 本時の指導について」を参照
調べ方を決める	不平等条約の改正の実現のために取り組むことは何か考えよう。 【判断を求める問い（本時中盤）】もしも自分たちが明治政府の中心人物だったら、不平等条約を改正するために優先して取り組むことは何か考えよう。 ◆不平等条約の改正の実現のために優先して取り組むことは何かを考える中で、学習の見通しを立てる。(態)		
調べたしかめる	③当時の人々が日本の政治に対して、どのような思いをもっていたかを調べる。 ◆国民の意見を政治に取り入れることを求めて、自由民権運動が起こったことを理解している。(知)	・どうして士族は反乱をしたのかな。 ・国民は政治に参加したいんじゃないかな。	○自由民権運動の演説会にせりふをつける活動することにより、国民が政治に参加したいという強い思いをもっていたことに気づくようにする。

	<p>④明治政府が目ざした政治の考え方について調べる。</p> <p>◆大日本帝国憲法の内容や国会を開いたことから、明治政府が目ざした政治の考え方を理解している。(知)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法と日本国憲法はどこがちがうのかな。 ・選挙権が制限されているのはおかしいな。 	<p>○大日本帝国憲法と日本国憲法を比較させることにより、大日本帝国憲法にも一部国民の権利が認められていることに気づくようにする。</p>
	<p>⑤日清・日露戦争から、日本と世界の国々との関係の変化を調べる。</p> <p>◆日清・日露戦争から、日本と世界の国々の関係の変化を捉えている。(知)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と中国が朝鮮を取り合っていたんだな。 ・日露戦争では賠償金や領土がもらえたのかな。 	<p>○朝鮮と日本・清・ロシアの関係を風刺した絵を見せることにより、日清・日露戦争後に、日本と世界の国々の関係性がどうなったかを考えられるようにする。</p>
	<p>⑥日露戦争が日本国内にもたらした影響や韓国併合、条約の改正について調べる。</p> <p>◆日本と外国との関係の変化や影響を様々な面から多面的に捉えている。(知)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争に反対をしている人もいたんだな。 ・朝鮮では、日本の支配に反対している人もいるんだね。 ・日本の力が世界に認められたから、条約改正が達成できたんだね。 	<p>○日本の領土の変化の地図を見せることにより、日本が外国に対して与えた影響や、外国との関係の変化について理解できるようにする。</p>
	<p>⑦日清・日露戦争後、日本の国力が充実したことや国際社会での地位が向上したことを調べる。</p> <p>◆日本の産業や科学の発展から、国力が充実したことや国際社会での地位が向上したことを理解している。(知)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争後に日本の産業はすごく発展しているね。 ・産業の発展によって、公害という問題が起こったんだね。 ・北里柴三郎や志賀潔のように世界で活躍した人もいるね。 	<p>○産業の発展や世界で活躍する日本人について調べることにより、日本の国力が充実したことや国際社会での地位が向上したことを理解できるようにする。</p>
	<p>⑧日清・日露戦争後、人々の暮らしや考え方がどのように変わったか調べる。</p> <p>◆暮らしの変化とともに、人々が民主主義を求める社会に変化したことを捉えている。(知)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今の暮らしに似てきているね。 ・米騒動はどうして起こったのかな。 ・平等な社会を求めていたんじゃないかな。 	<p>○近代的な暮らしの様子を提示することにより、人々が民主主義を求める社会へと変化していることに理解できるようにする。</p>
<p>話し合う</p> <p>みんなで考え</p>	<p>⑨不平等条約の改正の実現において、一番大きな影響を与えた取り組みは何かを話し合う。</p> <p>◆条約改正の実現に一番大きな影響を与えた取り組みについて、自分なりに考えをまとめている。(思)(態)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法ができたことで、文明が進んだ国だと認められたと思う。 ・日清・日露戦争に勝ったことで戦争に勝てる国だと示すことができたからだと思う。 ・世界で活躍する日本人がいることも大きな影響を与えたと思う。 	<p>○思考ツールを使うことにより、自分の考えを視覚的に整理できるようにする。</p>

ひろげ深める	<p>⑩ 当時の人たちに条約の達成を伝えるためのニュース原稿を作成する。</p> <p>◆ 条約の改正の実現に関する自分なりの考えを、ニュース原稿にまとめることができる。(思)</p>	<p>・政治の仕組みが整えられていることを伝えよう。</p> <p>・世界で活躍する人たちがいたことを伝えよう。</p>	<p>○ロイロノートを使って原稿を作らせることにより、お互いの意見を共有しやすくなるようにする。</p>
--------	--	--	--

6 本時の指導について

本時のポイント	ロイロノートを活用して同じ意見や異なる意見をもつ友達の見解を見ることができるようになることにより、自分の意見と比較したり関連付けたりして考えることができるか。
---------	---

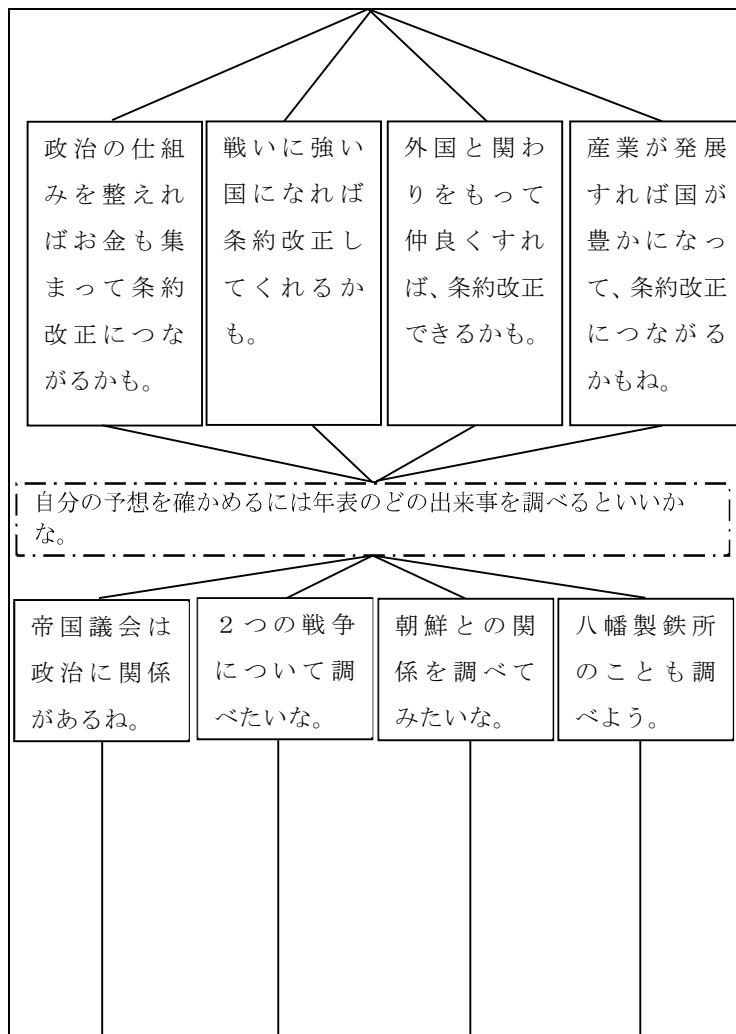
(1) 本時の目標

条約改正の実現のために優先して取り組むことは何か、根拠や理由をもって話し合うことで、学習の見通しをもつことができる。

(2) 本時の展開

□…本時のめあて、 □…子供の意識、 □…教師の問いかけ・働きかけ、 ■は資料

子供の意識の流れ	学習活動及び◇指導・支援 ◆評価
<p>日本人だけが助からなかったよ。</p> <p>イギリスの船長は軽い罰で済んだね。</p> <p>江戸時代に結んだ不平等条約が原因なんだ。</p> <p>不平等条約は絶対に改正しないとイケないね。</p> <p>不平等条約の改正の実現のために取り組むことは何かを考えよう。</p> <p>地租改正などでお金を集めればいろいろなことに使えるよ。</p> <p>徴兵令でたくさんの兵士を集めて強い軍隊をつくろう。</p> <p>外国に使節団を送って、改正に向けて話し合ったらどうだろう。</p> <p>日本独自の産業を発展させて、世界に認めてもらおう。</p> <p>それぞれの取り組みに見出しをつけよう。</p> <p>政治 軍事力 外国との関わり 産業</p> <p>もしも自分たちが明治政府の中心人物だったら、不平等条約を改正するために優先して取り組むことは何かを考えよう。</p>	<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 ⑤</p> <p>◇ ノルマントン号事件の風刺画を提示することにより、人々が不平等条約を改正したいと願っていたことを思い出すことができるようにする。</p> <p>■ ノルマントン号事件の風刺画</p> <p>2 不平等条約改正の実現のために取り組むことについて考え、それぞれの取り組みに見出しをつける。 ⑩</p> <p>◇ 教科書や資料集を参考にするように伝えることにより、根拠をもって取り組みについて考えることができるようにする。</p> <p>3 「もしも自分たちが明治政府の中心人物だったら、不平等条約を改正するために優先して取り組むことは何だろう」に</p>



ついて考え、話し合う。 ⑮

- ◇ 違う考えをもった友達と意見交換する場面を設けることにより、意見を比較したり関連付けたりできるようにする。

4 年表をもとに、自分がこれから調べていきたいことを考える。 ⑩

- ◇ 年表を提示することにより、調べることをイメージしやすくする。

5 本時の学習を振り返る。 ⑤

- ◇ ロイロノートを活用することにより、友達の意見を共有できるようにする。
- ◆ 不平等条約の改正の実現のために優先して取り組むことについて、根拠や理由をもって話し合うことで、学習の見通しをもっている。(態)

【発言・ロイロノート】